

近畿地方整備局 紀伊山地砂防事務所
記者発表

配布日時	平成24年10月3日 16時00分
------	----------------------

件名	<p>【平成23年台風12号 河道閉塞関連】</p> <p>・平成24年台風17号による栗平地区の河道閉塞部の一部侵食の発生について</p>
----	--

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月30日からの台風17号による降雨により、栗平地区の河道閉塞部において、湛水池からの水が仮排水路へ流出しました。 ・ この流水により、閉塞土砂の一部が侵食され、下流に土砂が流出しました。 ・ しかし、河道閉塞部には依然として仮排水路が残っており、また前面の勾配が緩やかになっていることから、対策前より危険性が増加したとは考えていません。 ・ また、流出した土砂は約700m下流の狭窄部付近までの間に緩い勾配で堆積しており、約5.5km下流の集落に直ちに被害が及ぶことは無いと考えております。 ・ 今後、仮排水路部分の土砂の侵食が進行する可能性があることから、湛水池の水位を下げるための排水ポンプの増設や、仮排水路末端部の保護に至急着手するとともに、侵食を受けた部分の対策を検討してまいります。あわせて、本格的な対策として、閉塞部下流での砂防堰堤の設置を進めてまいります。
----	--

取扱い	—
-----	---

配布場所	<p>近畿建設記者クラブ</p> <p>大手前記者クラブ</p> <p>奈良県政・経済記者クラブ</p> <p>五條市政記者クラブ</p>
------	---

問合せ先	<p>国土交通省 近畿地方整備局 紀伊山地砂防事務所</p> <p>副所長 大下 正和</p> <p>工務課長 大山 誠</p> <p>TEL 0747-25-3251</p>
------	--

栗平地区 位置図

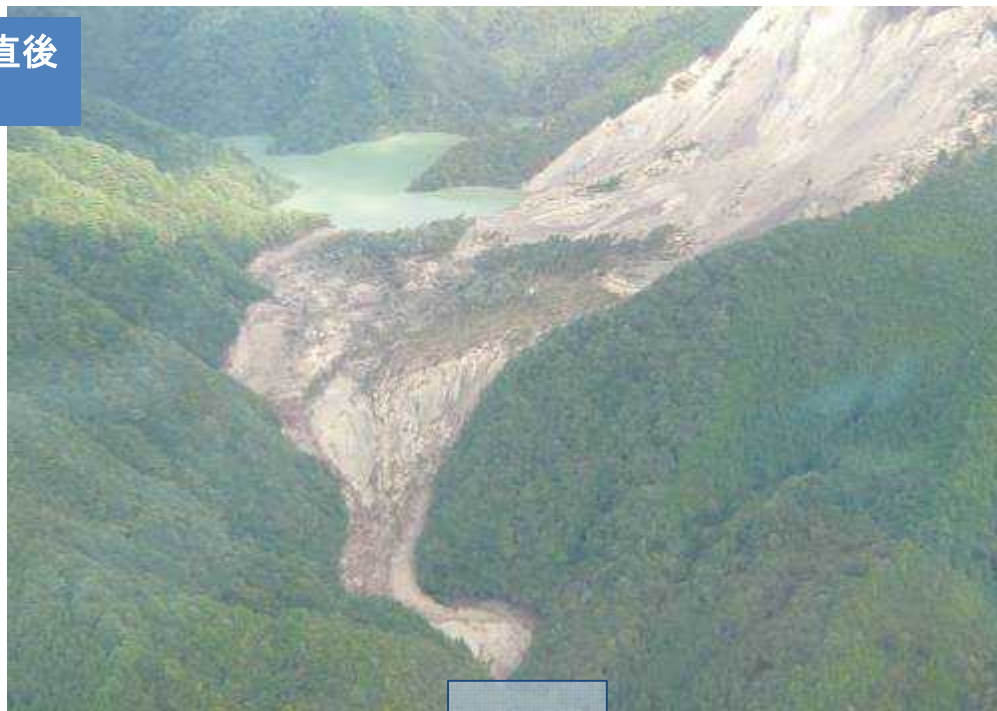


栗平地区 全体図



H23台風12号による被災直後
(平成23年10月3日撮影)

河道閉塞による天然ダム
の形成



H24台風17号前のようす
(平成24年9月20日撮影)

6月中旬に仮排水路完成



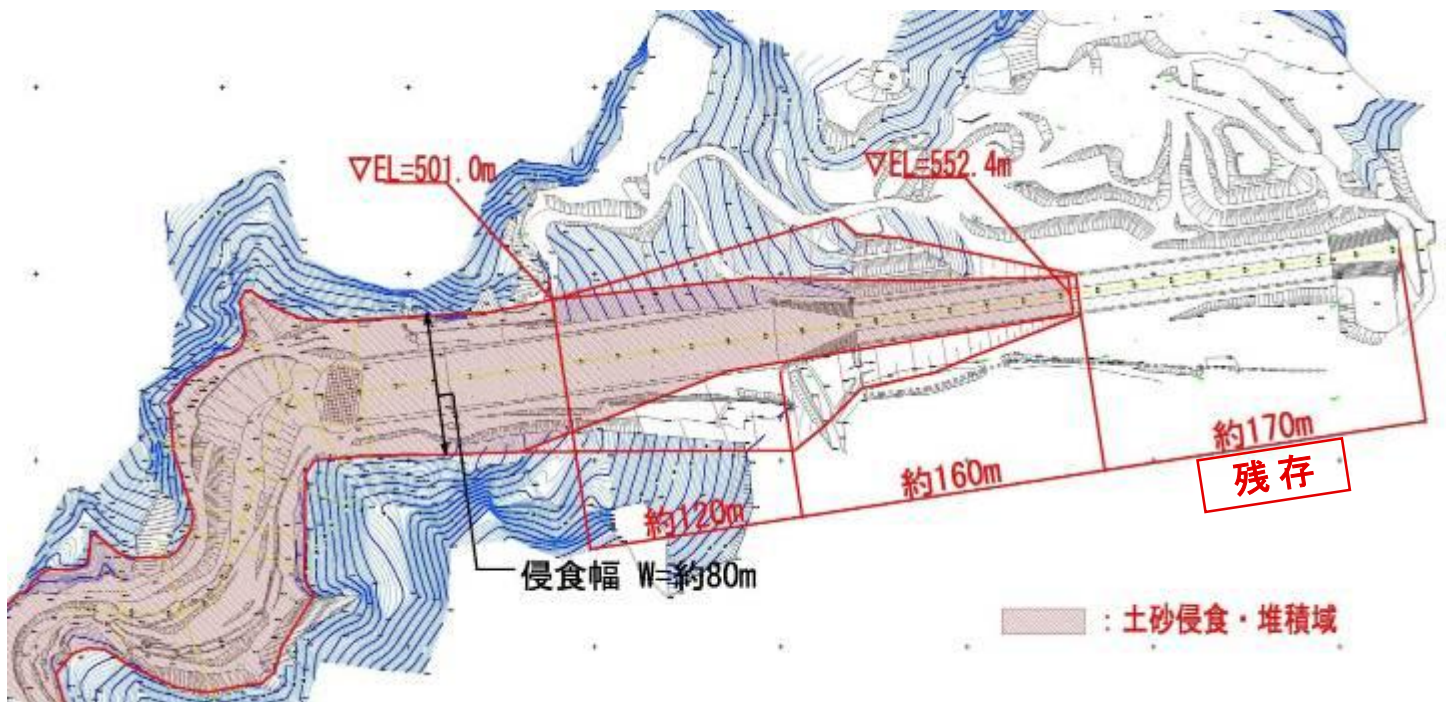
H24台風17号後の被災状況
(平成24年10月1日撮影)

- ・ 累積降雨量 約240mm
- ・ 最大時間雨量 53mm/h
(9月30日15時)

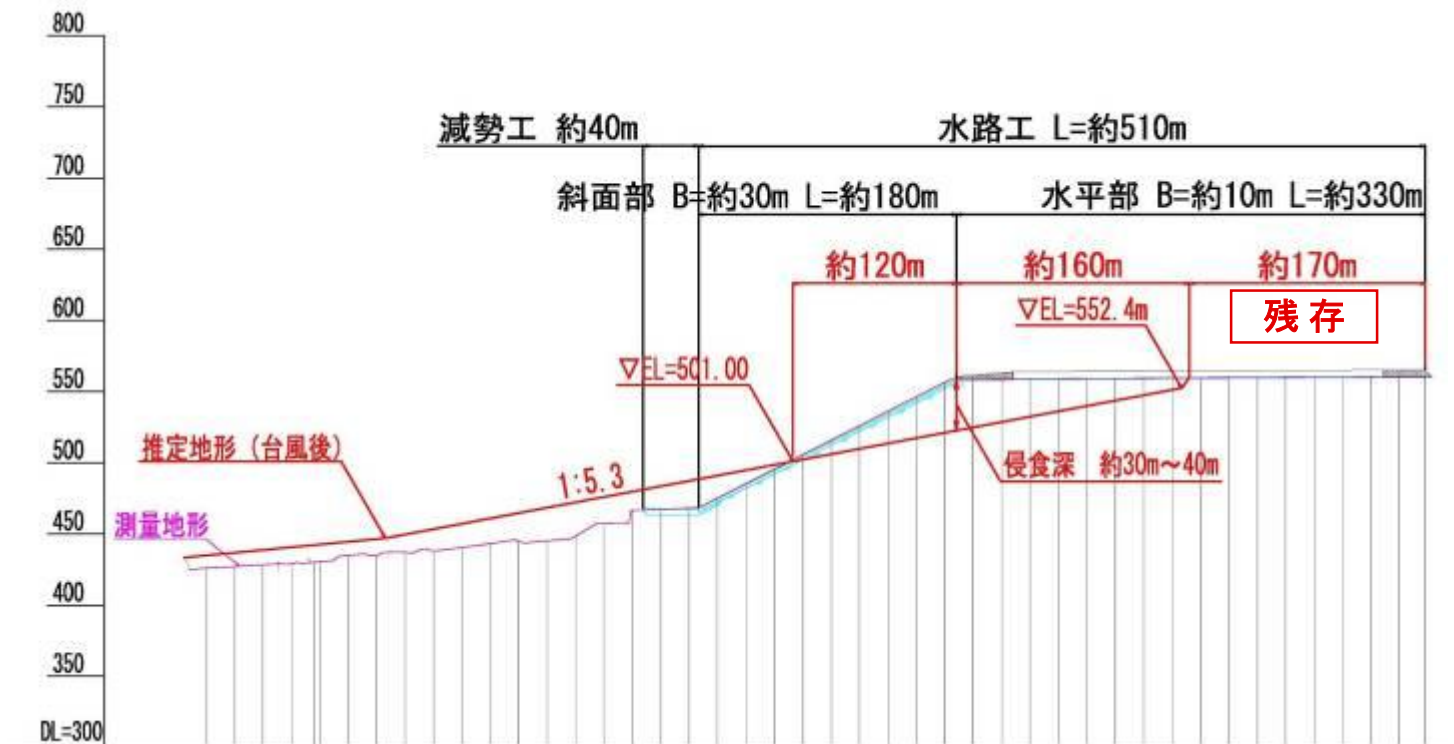


※10月3日9時30分現在
仮排水路より流出継続中

平面図



縦断面図



※ 数字は速報値であり、今後の調査により変わることがあります。

台風 17 号に伴う栗平河道閉塞被災調査 所見（要約）

○今回の被災メカニズム

監視カメラの映像等から以下のとおり推察される（現段階では特定ではない）

- ・ 仮排水路工完成後の最大の流量が流下する状況下で洗掘防止工が損傷
- ・ 下流端損傷箇所から堤体の侵食が徐々に上流に向かい進行
- ・ 侵食箇所の両岸に残存した堤体が不安定化し順次侵食箇所が拡大

○下流域への被害の危険性について

台風 17 号に伴う出水により仮排水路が被災したが、以下の理由により昨年の台風 12 号時に作成した緊急情報第 2 号における想定氾濫範囲を超えて土砂が下流に到達することはない。

理由 ①堤体の下流法勾配は被災前に比べて緩勾配となっている。

②元々仮排水路掘削時に越流開始点の標高が下がっている。

○今後の対策について

- ・ 復旧・補強は、アクセスが困難であるため、当面はポンプ排水により水位を低下させ次期出水に備える。
- ・ 閉塞部末端部（下流の河道狭窄部）への砂防堰堤の建設を急ぐことが重要

国土技術政策総合研究所砂防研究室長 岡 本 敦
土木研究所土砂管理研究グループ主任研究員 山越 隆雄